

学校だより

令和7年
1月号
1月8日
発行
笠置
中学校



「新しい年・・・第一步」

校長 田邊 久成



2025年がスタートしました。あなたの第一歩はどこへ向かって歩みを進めましたか？

2学期終業式での話で「目標」や「テーマ」、「スローガン」についても触れました。新年を迎えたあなたの頭に描いたもの、心に描いたものは何でしょうか？

誰にもわからない未来です。しかし、確かに自分が描いたもの。それに向かって、できることから一歩ずつ歩んでいきましょう。

さて、元旦を迎えた朝、多くの報道番組では新年の挨拶の後には、「能登半島地震から一年が経ちました」が聴かれました。「一年が経つのは早いな」「自然災害は起こってほしくないな」などと思っていると、このような言葉が耳に残りました。「戦後八十年になりますが、今この時を『戦前』にしてはいけない」……。

昨年、修学旅行、夏の講話、校外学習などで笠置中生は「平和」について学習しました。と、同時に「戦争」（過去に起きた出来事で済ましてはいけない）、「戦争」（語り継がれている様々な人の思い）、「戦争」（世界で今なお起きているという現状）。についてもしっかりと考える機会を持ちました。自然災害は困難でも、戦争は人の思いでくい止めることができる。人々が「心穏やかに安心して暮らせる世界」……。考えを深め、どう行動していくかが問われている、そんな今年だと思えます。

ところで、217.1km、この距離を知っていますか？ 二日・三日に行われた東京箱根間

往復大学駅伝競走 10区間の距離です。今年も多くのドラマが生まれましたが、それだけの距離を走ってきて、わずか数秒差で 10 位に入れず来年のシード権をとれなかったチームがあります。タイムは

10 時間 55 分 05 秒。しかし、このタイムはここ 3 年の大会でいえば総合 5 位にあたります。今年は、予想を遙かに上回る高速レースでした。一年いやそれ以上の準備・予測をしてきてそれでもうまくいかない時がある。

準備すらしていなかったらどうなっていたやら……。悔しいけど、もうすでに、次に向かって勇気を持ってその一歩を踏み出しているそうです。歩み続ける。

みなさんも、新しい年……思い描いたその先へ、さあ、第一歩を踏み出そう。



巳年

巳（み・へび）は、古来よりさまざまな意味を持つ生き物として捉えられてきました。へびの姿から苦手意識を感じる人も一方、金運や繁栄をもたらす縁起があるものとして広く認識されています。「巳（み）」と「実（み）」の語呂から、「実り」や「収入」を連想させる縁起物としても親しまれ、金運上昇に効果があるとされてきました。そのため、へびの抜け殻や、へび革の財布などは、金運を引き寄せるものとして知られています。

またへびには、「新しく産まれてくる」、「将来・未来がある」といった意味もあります。これは、へびが定期的に脱皮を繰り返すことに由来し、生命力や再生、変化と進化の象徴とされているからだそうです。

へびは「脱皮」を繰り返し、成長していきます。同じように、私たちも新しい経験や学びを通して自分を成長させることができます。時には、困難なことや失敗することがあるかもしれませんが、それらを新たな挑戦の機会として受け入れ、自分自身を再生させ、さらに一歩前に進むことができる、令和7（2025）年もそんな一年にしていきたいですね。



